

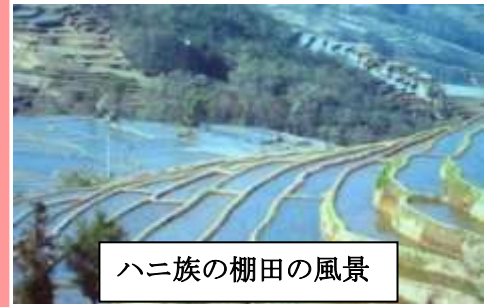
朱鷺と環境について考えるシンポジウム 開催！

2月24日、佐渡市中原のアミューズメント佐渡にて、『世界農業遺産の島 生きものを育み活用する地域づくり』と題して、佐渡市と新潟大学主催で開催されました。このシンポジウムは、佐渡の生物多様性について考えるもので、当日は約250名の方が真剣に耳を傾けていました。講演では、世界農業遺産（GIAHS）に登録されている中国の「雲南省（うんなんしょう）」棚田の視察報告があり、来場者は、生活様式や文化の異なるハニ族の日常の様子を聞き、食の文化の違いや自然の豊かさに大変驚いていました。

「様々な立場からの生物多様性への取り組み」と題してのパネルディスカッションでは、農家やシェフ、朱鷺の島環境再生リーダー環境教育コース修了生など10名が登壇し、生物多様性保全の推進について様々な角度から意見を述べていました。意見交換の中で、シェフの里野もみいちさんは『私の店はできるだけ地元のものを使った料理を出しています。昨年の夏に、短期研修として学生を2人迎えましたが、今年からその2人がUターンで就職してくれることになったことが、最近の嬉しい出来事です。近所の農家の方からも、どんな野菜でも作ってくれるというし、よく野菜や山菜を分けていただいているので本当に助かっています。料理する側と農家が繋がりをもち、よい関係を築いてできた料理を佐渡の皆さんに食べていただきたい。』と語っていました。また23年度の朱鷺と暮らす郷米の売上金の一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に募金する贈呈式も行われました。



挨拶をする佐渡市長



ハニ族の棚田の風景



パネルディスカッションのようす

雪割草の季節になりました

3月上旬になると、島内のあちこちで雪割草の展示即売が開催されます。雪割草は雪国に春を告げるといわれるサクラソウ科サクラソウ目の多年草です。花の形状は、花卉の有無など様々あり、7種の花の形があると言われていて、3月下旬頃には佐渡の平地でごく身近に道端などに咲いていますが、5月はトレッキングを楽しみながらカタクリの花と一緒に咲いているところが見られて、とてもきれいです。

佐渡の北端、外海府地区では、地面に広がって咲き誇ることから、「地桜」と呼ばれており、ピンクや赤、紫、白、黄など色とりどりの雪割草が咲くと、見る者の顔を綻ばせていました。



24年産佐渡コシヒカリが特Aに選ばれました

穀物検定協会の食味ランキングで、24年産佐渡産コシヒカリが特Aに選ばれました。この結果、平成17年から8年連続での特A取得となりました。



まさき食の陣 2013 が行なわれました！

佐渡沖で獲れた魚介類や鱈などを味わう催しが、佐渡で開催されました。会場では、佐渡の伝統芸能の鬼太鼓や、足湯、雪中宝探しなど楽しいイベントが行われました。また鱈汁が無料で振舞われ、海岸に吹く風は冷たく寒い1日でしたが、島内外からみえた多くのお客さんで、大変賑わっていました。

